

三浦工業株式会社

決算説明及び業績予想 ミウラの成長戦略

開催日：2018年11月19日(月)

熱・水・環境のベストパートナー

代表取締役 社長執行役員CEO 宮内 大介



MIURA Co., Ltd. All Rights Reserved.

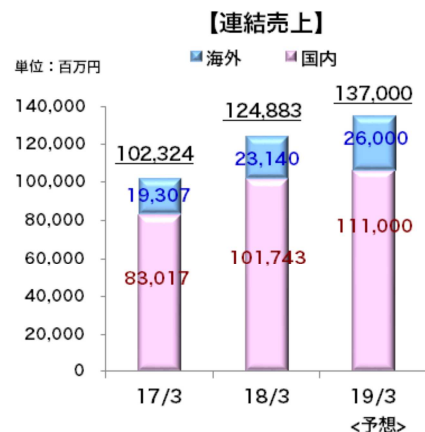
Date 2018.11.5

1. 会社概要

1 会社概要



社 名 三浦工業株式会社
所 在 地 愛媛県松山市堀江町7番地
設 立 1959年5月
ミウラグループ
(三浦工業含む) 国内 11社、海外 15社
※ 2018年9月30日現在
従 業 員 グループ 5,700名
(うち海外 1,648名)
事業内容 機器販売事業
 メンテナンス事業
格付情報 発行体格付 A (維持) 2018 年 10月公表
 株式会社格付投資情報センター (R&I)



<IFRS>	17年3月期 実績	18年3月期 実績	19年3月期 計画 (修正)
売上収益 (百万円)	102,324	124,883	137,000
営業利益 (百万円)	12,401	13,868	15,200
税引前利益 (百万円)	12,898	14,183	15,700
親会社の所有者に帰属する当期利益 (百万円)	9,012	10,363	11,300
基本的1株当たり当期利益 (円)	80.08	92.09	100.41

MIURA Co., Ltd. All Rights Reserved.

2

グループ従業員数は5,700名、約10年前の約3,500名で約1,200名が入社し、活躍。海外は現在1,648名で10年前は約350名、引き続き海外に注力していく。

2. 2019年3月期第2Q決算の概要

| 上期業績

単位：百万円

<IFRS>	17年9月期	18年9月期	増減率
売上収益	55,156	65,632	19.0%
売上原価	32,651	39,913	22.2%
販管費	16,280	18,146	11.5%
その他の収益	416	489	17.5%
その他の費用	31	38	22.6%
営業利益	6,610	8,022	21.4%
税引前利益	6,827	8,310	21.7%
親会社の所有者に帰属する四半期利益	4,712	5,933	25.9%

《 概 要 》

過去最高の増収増益を達成

国内各事業は堅調、海外でボイラ販売が好調

国内ランドリー事業好調

インバウンド需要と省力化、自動化への顧客ニーズ

全海外現地法人で堅調に推移

ガス焚きボイラへの入替需要増加

メンテナンスは国内外とも堅調

ボイラ設置台数の増加、積極的な有償保守契約取得

MIURA Co., Ltd. All Rights Reserved.

4

上期業績について

売上収益は昨年度551億円、今期656億で19%増加。

売上原価も増加しているが、営業利益は昨年度66億円に対し、今年度80億円で21.4%増加。

どこが成長したのか？

売上、利益ともに過去最高であるが、国内各事業は爆発的ではなく堅調に推移。海外も同じく基本はボイラが順調に推移。

要因は？

日本、海外共に景気が悪い雰囲気はなく、設備投資が堅調に推移したことを受けボイラも堅調に推移。

ボイラ事業は画期的な商品があったというより、日々のやるべきことをしっかりと実行した。

数的に一番大きいのは国内ランドリー事業。

アイナックス稲本は昨年7月1日にグループ会社に入り、昨年度は7月から9月分のみだったが、今年度は4月から9月分で膨れて見えるが、非常に好調に推移。

中国のガス焚きボイラの入替需要は引き続き継続。

中国が環境に関して真剣に取り組もうとしているのは間違いない。それを受けてガス焚きボイラへの入替は堅調に推移。しかし、現実には気持ちに伴わない事象が発生しており後ほど説明。

メンテナンス事業に関しては国内外とも堅調。

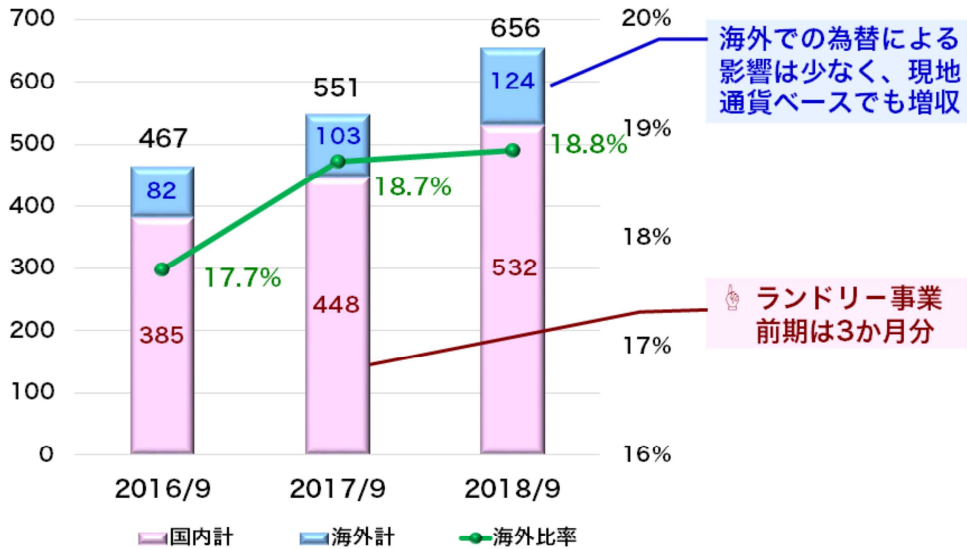
強みとして、確立されたビジネスモデルであり、国内外とも継続して教育に力を入れ、好調。

数字としてはまだ拡がっていないが、下支えとしてボイラ以外の機器メンテナンスも進めている。

組織的に今まで縦割りが強かったが、(例えば、水処理は水処理事業、ボイラはボイラ事業というように事業部内で完結)昨年から横割へ(例えば、東京なら東京地区内ですべて完結)という横串を強くした。組織の結束力が高まったことによるメンテナンス能力の維持、向上が進み、特に国内でメンテナンスが堅調に推移。

国内及び海外売上推移（IFRS）

単位：億円



MIURA CO.,LTD. All Rights Reserved.

5

国内外の数字の推移のグラフについて

海外が124億円、国内が532億円で、海外売上比率は18.8%。

海外比率20%を1つのターゲットとして進めているが、ランドリー事業はほとんど国内で、ランドリー分の母数が増えた分、海外の比率が20%に届いていない現状。

2 2019年3月期第2Q決算の概要

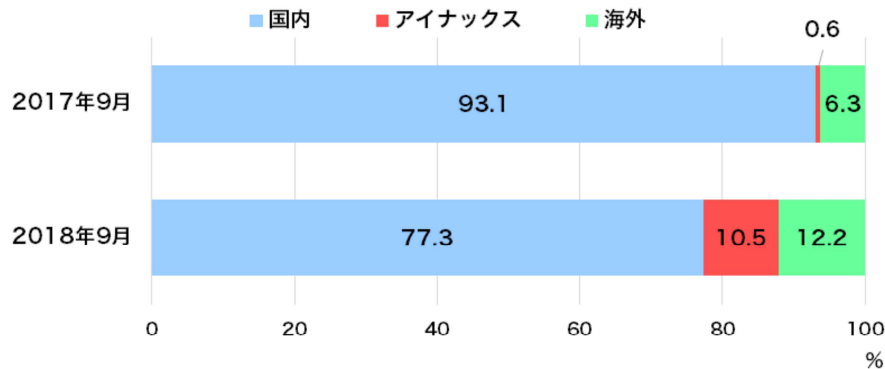
MIURA

計画実績対比

単位：百万円

2019年3月期 第2Q決算	計画	実績	達成率
売上収益	63,500	65,632	103%
営業利益	7,000	8,022	115%
税引前利益	7,100	8,310	117%
親会社の所有者に帰属する四半期利益	5,000	5,933	119%

営業利益構成比



MIURA CO.,LTD. All Rights Reserved.

6

計画実績対比について

売上は計画635億円に対して656億円で達成率103%。

営業利益は計画70億円に対して80億円で達成率115%。

営業利益の構成比について

アイナックスが入り、そのポジションが約10%強。

海外は利益が出始め、割合も12.2%。

国内事業が堅調な中、利益が伸びているのは新しい事業と海外であり、基本的には描いたデザインどおりの展開でこの半期は進んだ。

2 2019年3月期第2Q決算の概要

MIURA

上期計画との対比

単位：億円

上 期		2017年度 実績	2018年度 計画	2018年度 実績	差額 実績－計画
国 内	ボイラ	277	280	285	5
	アクア（水処理機器）	13	16	14	-2
	船用	40	42	48	6
	食機・メディカル	50	50	51	1
	ランドリー	41	80	104	24
	その他（特機・新事業開発・環境 等）	27	32	30	-2
小 計		448	500	532	32
海 外	米州（アメリカ・カナダ・ブラジル・メキシコ※）	17	21	24	3
	韓国	35	33	36	3
	中国	35	61	42	-19
	アセアン・台湾	16	20	22	2
	小 計	103	135	124	-11
合 計		551	635	656	21

※2018年9月期よりメキシコ連結

MIURA Co., Ltd. All Rights Reserved.

7

事業部別の上期計画との対比について

ボイラ事業

・昨年度実績277億円、今年度計画280億円で、プラス要素があり285億円。

アクア事業

・昨年比では微増だが、計画ほどは伸びていない。

船用事業

・バラストが進まないのではと思っていたが、新造船にバラスト水処置装置搭載され、この部分での販売は堅調に推移し、昨年比8億円、対計画も6億円プラス。レトロフィット市場はまだ進んでいない。

ランドリー事業

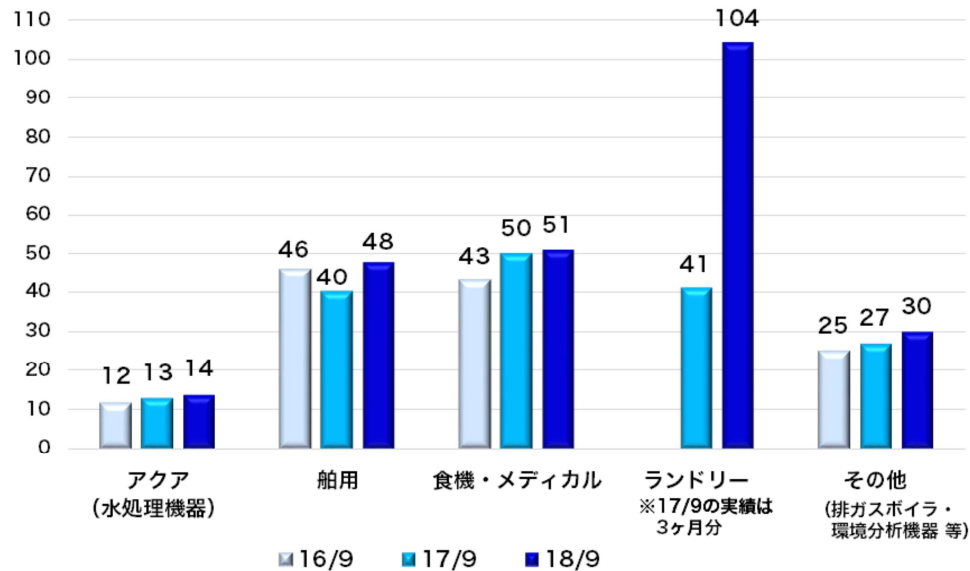
・読みが保守的だったのではという見方もあるが、計画80億円に対して実績104億円でプラス24億円、上期計画に対してのプラスアルファ分はランドリーが非常に大きい。

海外事業

・各国非常に堅調に推移しているが、中国が対計画で見るとマイナス19億円と落ち込みが激しい。ただ、昨年度実績35億円、今年度42億円で約2割は伸ばしており、計画が如何せん61億円とかなり強めだったので、そのギャップが19億円でマイナス要因となった。

国内売上の状況

単位：億円



MIURA Co., Ltd. All Rights Reserved.

8

国内各事業部の売上状況について

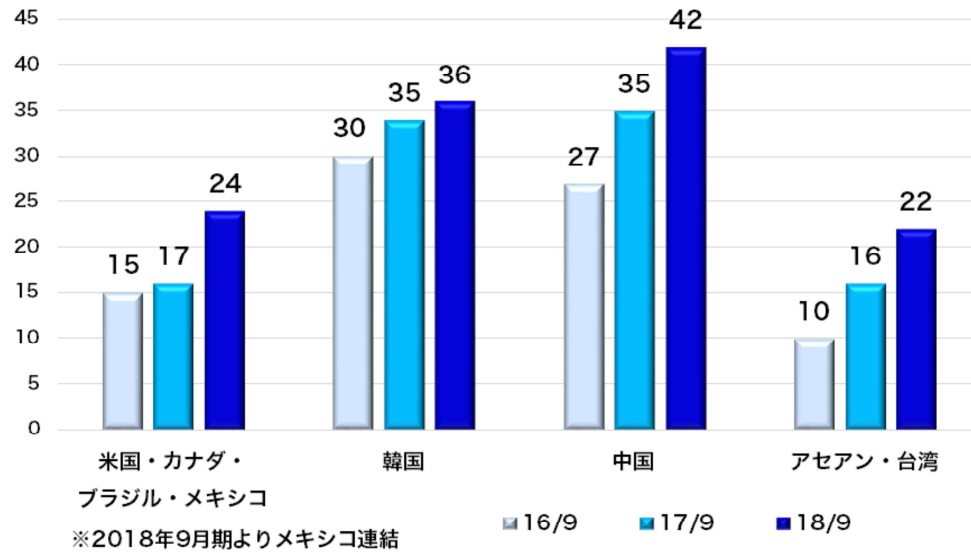
爆発的な商品はないが、堅調に推移。

ランドリーについては、昨年度は7月から9月で41億円、今年度は4月から9月で104億円で、期間が倍としても少し多い感じがするが、決算期の変更が影響していると思われる。

アイナックス稲本は、グループ会社以後の決算期は4月から翌年3月で、以前は7月から翌年6月だったので、6月までに売上げて計画達成したいと思いと、営業マンの自己目標達成という意味でも4月から6月は努力した部分で、同じ上期中であっても4～6月と7～9月ではかなり差が出ている。

海外売上状況

単位：億円



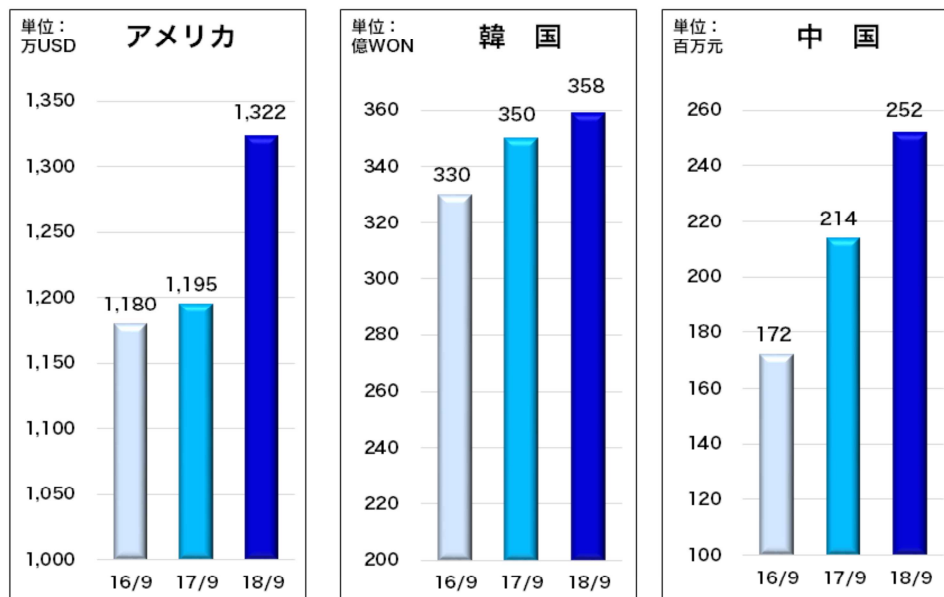
MIURA Co., Ltd. All Rights Reserved.

9

海外売上状況について

右肩上がりで、変曲点を生むほどのブレイクはしていないが、堅調に推移。今の取り組みが正しい道で動いていると考える。

主な海外売上の状況（現地通貨ベース）



MIURA Co., Ltd. All Rights Reserved.

10

主要国のアメリカ、韓国、中国について

アメリカ

・率でいうと若干伸びている。アメリカは基本的に販売店経由の販売体制であるが、販売店経由にスイッチしている最中で、その効果としてボイラを販売してもらうネットワークが拡がりつつあり、成長要素の1つと思われる。

韓国

・ボイラは飽和感があり、トータルソリューションで保守を含めたボイラの機器販売プラスアルファを引き続き推進していくステージ。

中国

・後ほど担当役員の児島より詳細説明。

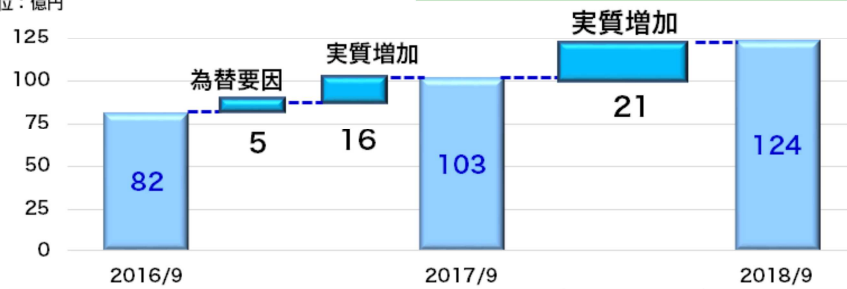
2 2019年3月期第2Q決算の概要

MIURA

海外売上増加要因分析

単位：億円

海外での為替による影響は少なく、
現地通貨ベースでも増収



為替 (平均レート)	2017年度	2018年度	増減率	2018年度計画
USD	111.04	110.26	- 0.7%	105.00
CAD	85.58	84.87	- 0.8%	82.00
元	16.42	16.74	2.0%	16.40
WON (100W)	9.83	10.04	2.1%	9.60
ルピア (100Rp)	0.84	0.78	- 7.6%	0.80
台湾ドル	3.67	3.65	- 0.5%	3.50
ブラジルレアル	34.83	29.27	- 16.0%	32.00
メキシコペソ	6.11	5.75	- 5.9%	5.75
タイバーツ	3.28	3.40	3.7%	3.20

MIURA Co., Ltd. All Rights Reserved.

11

為替について

影響はほとんど無く、昨年度103億円から今年度124億円のプラス21億円、約2割が実質海外において成長を続けている。

2 2019年3月期第2Q決算の概要		MIURA			
2018年度 年間計画の修正					単位：億円
		2017年度 実績	2018年度 計画	2018年度 (修正後)	差額
国内	ボイラ	588	594	609	+15
	アクア(水処理機器)	29	35	35	
	船用	86	90	100	+10
	食機・メディカル	104	106	106	
	ランドリー	139	170	190	+20
	その他(特機・新事業開発・環境等)	71	70	70	
	小 計	1,017	1,065	1,110	+45
海外	米州(アメリカ・カナダ・ブラジル)	44	45	45	
	韓国	69	70	70	
	中国	83	130	100	- 30
	アセアン・台湾	35	40	45	+5
	小 計	231	285	260	- 25
合 計		1,248	1,350	1,370	+20

MIURA Co., Ltd. All Rights Reserved.

12

年間売上計画の修正について

1,350億円から20億円プラスで1,370億円に修正。事業によって若干ばらつきあり。

ボイラ事業・・・年間でプラス15億円。上期5億円、下期も計画に対して10億円プラスで、ボイラに関しては非常に好調な受注。東京に代表されるオリンピックまでという言葉通り、実際に各社堅調な投資を受け、ボイラも堅調に進む。

アクア事業・・・上期マイナス2億円、下期プラス2億円ではほぼ計画通り。

船用事業・・・新造船へのバラスト販売が好調に推移。上期6億円、下期4億円プラスでトータルプラス10億円。

ランドリー事業・・・上期24億円、下期マイナス4億円でプラス20億円。

国内事業に関しては年間プラス45億円のうち、上期32億円、下期13億円のプラス。メインはボイラ。

海外

アメリカ、韓国・・・年間ほぼほぼ計画通り。

中国・・・数字的には若干の減速だが、減速なのか、当初の目標が高すぎたのか検証中。上期マイナス19億円、下期マイナス11億円で通年30億円の当初計画よりもマイナス。

海外は下方修正で売上25億円減。計画より上期マイナス11億円、下期マイナス14億円の予想。国内外の各事業合わせ、既に発表しているプラス20億円微増の業績予想。

3. 利益配分、株式の状況

3 利益配分、株式の状況

MIURA

① 安定的な配当の継続

② 連結配当性向30%を目処

18年3月期

中間 11円

期末 17円

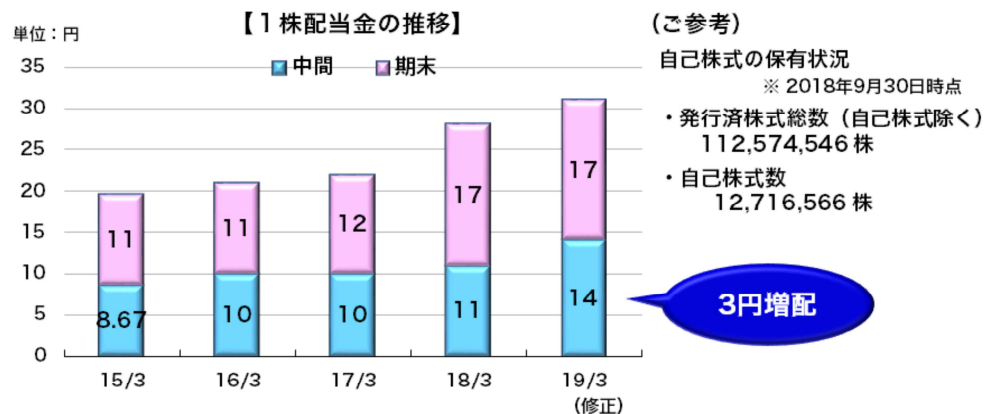
合計 28円

19年3月期

中間 14円 (修正)

期末 17円

合計 31円 を予想



MIURA Co., Ltd. All Rights Reserved.

14

利益配分ならびに株式の状況について

基本的な考え方は継続し、安定的な配当の継続と配当性向30%を目処とする。

19年3月期の上期は当初の計画よりもプラスアルファ分があり、中間配当は昨年11円に対し14円で3円増配。

下期は、上期が伸びた分下期はほぼほぼ計画通りだが、期末配当は従来どおりの17円で据置きと予想、年間は31円の配当を目標。

三浦工業株式会社

決算説明及び業績予想 ミウラの成長戦略 2

開催日：2018年11月19日(月)

熱・水・環境のベストパートナー

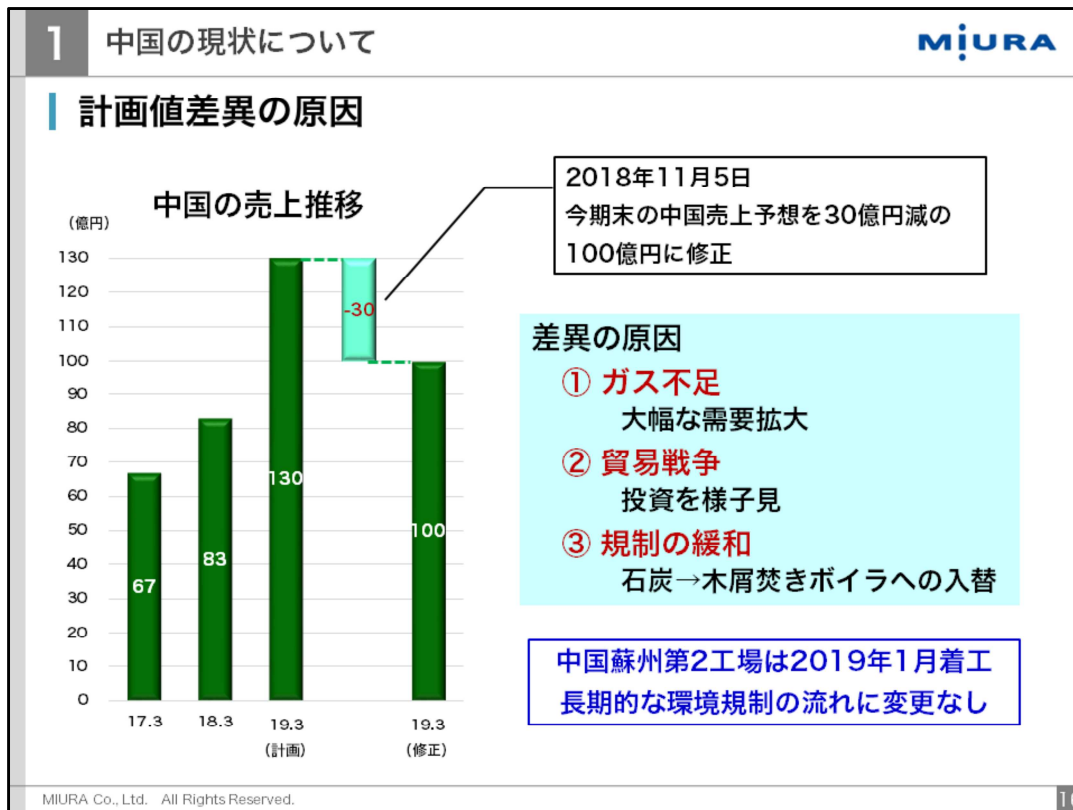
代表取締役 社長執行役員CEO 宮内 大介



MIURA Co., Ltd. All Rights Reserved.

Date 2018.11.5

1. 中国の現状について



中国市場の動きについて（取締役 常務執行役員 アジア事業本部長 児島好宏）

中国の売上30億円の下方修正の要因

① 主な要因は基本的にはガス不足

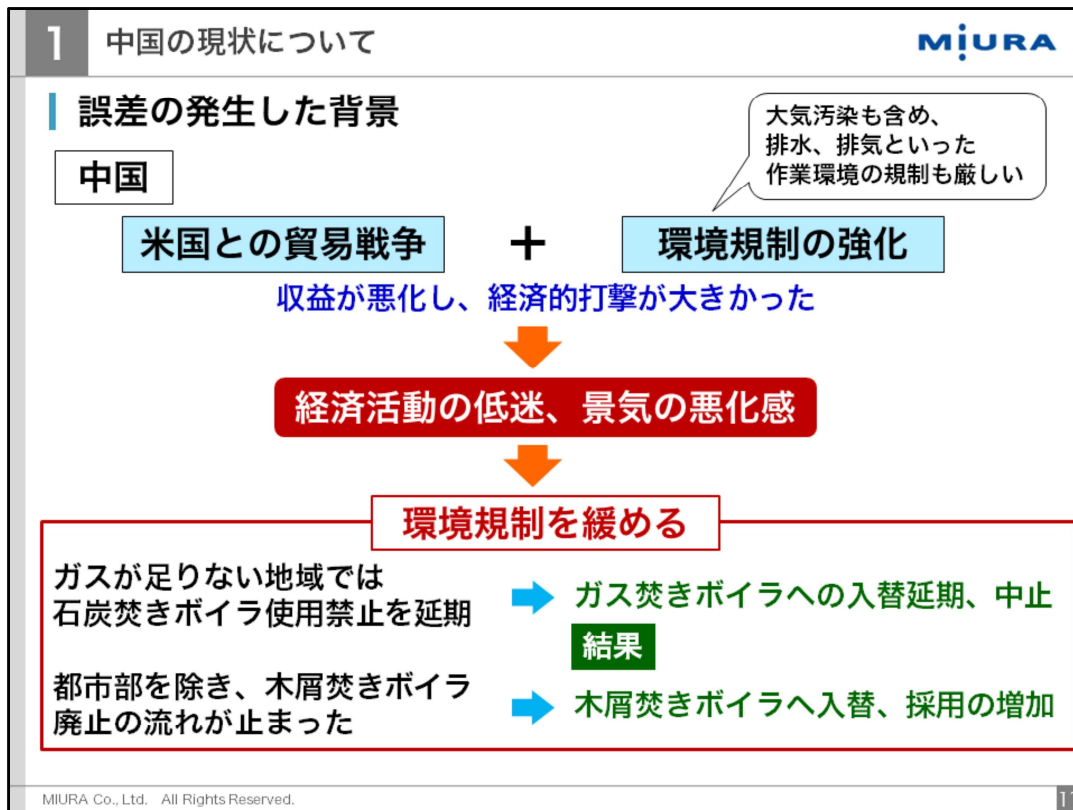
昨年冬場の工場ストップや、ガス不足で燃料代が2倍に上がるというイメージが今年も残っている。需要拡大については、ガス使用量は2015－2016年で日本で年間使用する約9割くらいのガス量が増加。全体のエネルギー量としては約2%ちょっとくらいだが、2%のエネルギーをガスに代えるだけで、ほぼほぼ日本の約1年分の使用量、90%くらいが増加。中国はガス化を真剣に進めているのは間違いない。

② アメリカとの貿易戦争による関税の問題

設備投資の計画が延期、ストップしている会社が少し増加。

③ 規制の緩和

ガス化による燃料代の高騰、ガス不足により、中国政府が木屑焚きボイラ（中国では生物燃料、バイオ燃料と呼ぶ）を許可したため、木屑焚きボイラへの転換が急速に増加。



中国全体の現在のイメージについて

中国の環境法規制は世界で一番厳しい法律を中国に当てはめている。
そのため、ボイラ以外にも排水、排気処理にお金を掛け、その分をほとんど価格転換出来ておらず、利益を圧迫。経済活動の低迷、景気の悪化感が少し出始めている雰囲気。
しかし、景気の良い企業も多数あり、全体としては昨年とほぼほぼ同じくらいの数字で推移。

中国は環境規制について各企業からいろいろな情報が入り、少し規制を緩めている。
ガス不足の地域では、石炭ボイラ使用禁止を2～3年後ろへ延期している地域や、都市部を除き木屑焼きボイラの使用を認めるという所も少し増加。石炭からガスではなく、石炭から木屑焼きが増加。

1 中国の現状について

MIURA

環境規制の現状

環境規制	エリア	影響	2018年度	2019年度
NOx強化	上海市 華北エリア 山西省	バーナ変更 新型ボイラ		
石炭焼き禁止の延期	東北エリア (大連市)	案件延期		 東北パイプライン が予定通り完成す れば  の可能性 あり
木屑焼き禁止の延期 (2021年まで)	広州市	案件延期		
木屑焼き許可 (石炭→木屑焼きへ入替)	広東省 (参考) 2017年設置台数 ・木屑 500台 ・ガス 450台	負け案件		

MIURA Co., Ltd. All Rights Reserved.

1

MIURA Co., Ltd. All Rights Reserved.

18

地域別の中国の環境規制について

NOx規制が強くなっている地域・・・上海市、華北エリア、山西省

昨年比約80%の伸び。来年度も規制はこのまま継続されられると思われ、この地域については引き続き増加予想。

石炭焼き禁止延期・・・東北エリア

ロシアからのガスがまだきておらず、規制が入らず延びている。後ほど別途資料で説明。

木屑焼き使用禁止延期・・・広州市

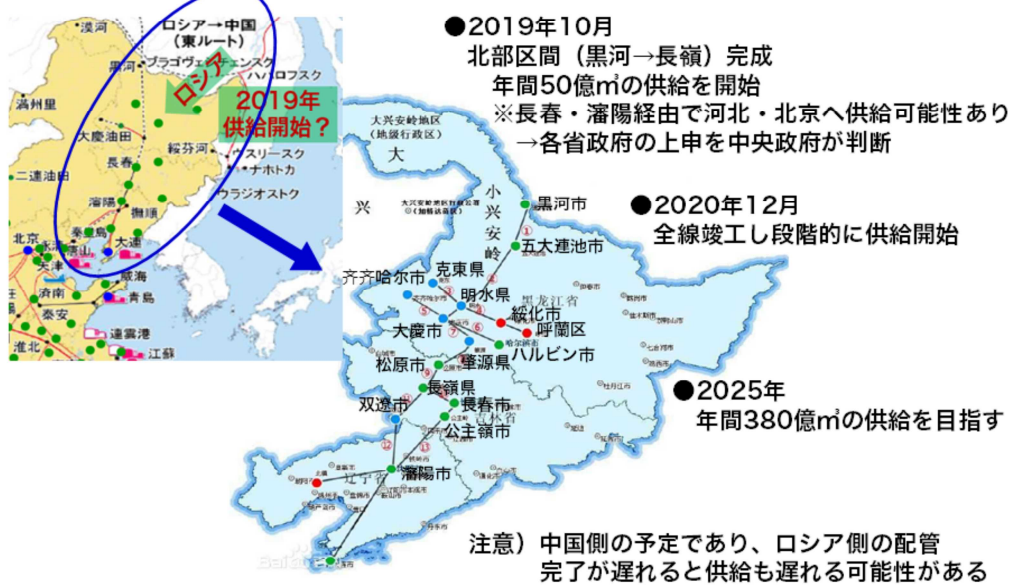
2018年に木屑焼きボイラ禁止が一度出たが、8月に撤回。2021年まで使用可。基本は今ある物件のフォローと規制が延びた物件の継続フォローで対応。

木屑焼きボイラの許可・・・広東省

木屑焼き禁止の延期により、継続許可する地域があり、木屑焼きの実績がどんどん増加している大きな流れがある。

ガス不足

東北地方のパイプライン供給スケジュール



MIURA Co., Ltd. All Rights Reserved.

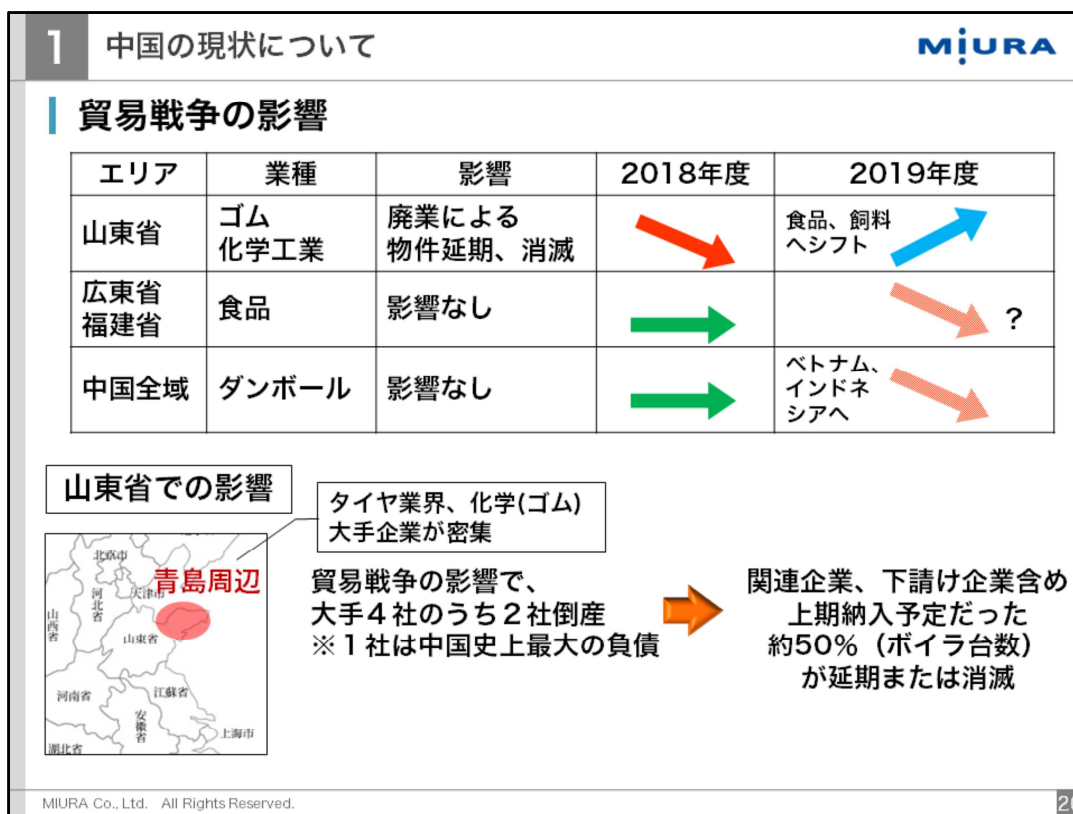
19

東北地域のガス化、ロシアからのガスの情報について

見通しとしては、2019年10月に一時的なパイプラインが繋がる見込みだが明確ではなく、時期がきた段階でガスが通れば規制が入る。

2020年に全線開通となる見込みで、2021年くらいから規制が入ると思われる。

北京中央部がガス不足になれば優先する可能性あり、状況を見ながらということになる。



アメリカとの貿易戦争の影響について

一番影響が出たのが山東省のゴム化学。

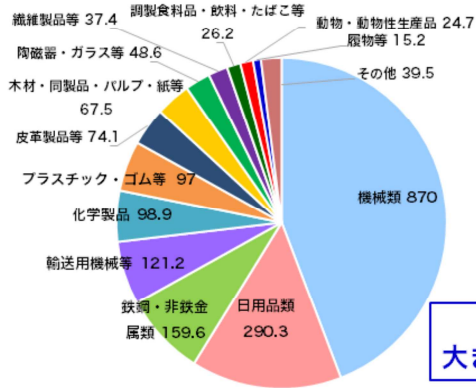
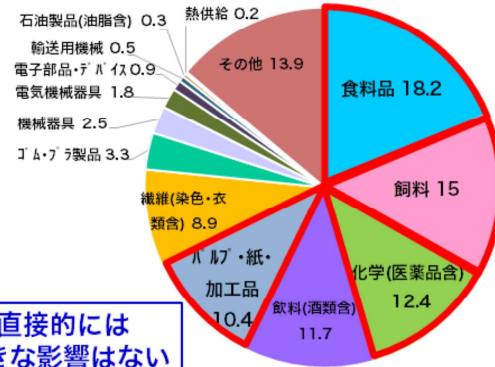
山東省は中国のタイヤ製品の約60%を製造している地域。

2年前からタイヤ業界を攻略目標とし、昨年までは非常に順調だったが、今年6月に山東地区で大手2社が倒産。そこから物件がほとんどストップし、現在は食品へ大きくシフトを切り替え。

食品、ダンボールは今のところ順調に推移しているが、ダンボールの原紙を造る工場では50%がアメリカからの古紙、再生紙を輸入しており、これに中国が関税を掛けると原価が上がり、価格転換できるのかどうかというところを懸念している。

今はまだ中国の関税は掛かっておらず、今のところは順調に推移している。

貿易戦争の影響

米国の301条課税対象品目リスト
(7/10発表：2,000億ドル)ボイラ市場での用途割合
(当社調べ)直接的には
大きな影響はない影響を受け難い業種を
ターゲットとしている

食品・飼料・製薬・ダンボール業界

通商法301条

外国による不公正な貿易慣行に対し、大統領の判断で
一方的に関税引き上げなどの制裁措置が取れる

MIURA Co., Ltd. All Rights Reserved.

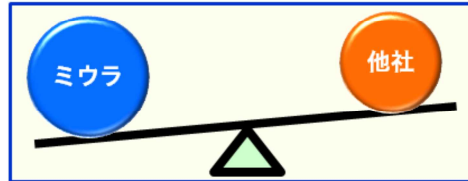
21

左側がアメリカが関税を掛けている割合、右側が現在取引している比率の高い業種。
食品、飼料、医薬品、化学、飲料、パルプ、ダンボールあたりは今のところはあまり影響を受けていない業種で、基本的には順調に推移。
ただ、ダンボールについては前述のように古紙の流れがどうなるかは懸念事項。

価格競争

「ライフサイクルコスト」の説明が必要

イニシャルコスト



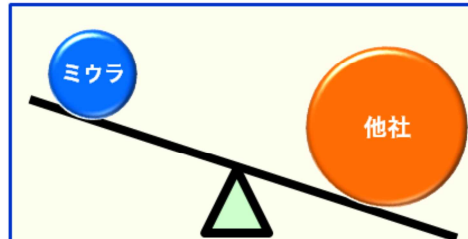
- 本体
- 施工費

性能いいけど
買えないよ…



10年20年使うんだから、
トータルメリットを知って
もらわなくては

ランニングコスト



独自の省エネ技術

- 燃料代
- 保守・点検
- 部品・消耗品
- 交換費用
- 故障修理

ZMP契約



営業のレベル的な問題かもしれないが、機器販売価格が中国のメーカーよりも高い。
しかし、ランニングコストについては省エネ等々出来るので、コストには競争力があり、ランニングコスト、ライフサイクルコストを含めたPRについて、営業マンの教育等含めて立て直す予定。
大手企業のように原単価で把握している会社にはランニングコストは認められており、基本的には大手企業を攻略しながら事業を進めたい。

競争の激化

競争の激化で、売上単価が低下

数年間のメンテで回収する

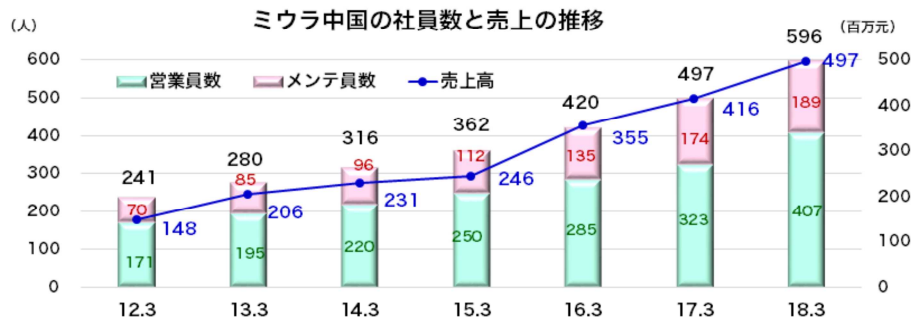
ランニングコストのメリットの訴求

教育

研修センター(200人収容)
建設予定

営業、メンテ別に集合研修を実施

- ・新人営業マンの育成
- ・ボイラ日誌、負荷分析による提案方法



MIURA Co., Ltd. All Rights Reserved.

23

営業員、メンテナンス員の人数に対する売上の推移について

人数に対する売上は順調に伸びているが、一人あたりの売上単価が上がっていない。
第2工場を建設するにあたり、200人収容の研修施設を準備し、研修センターでの全体教育によるレベルアップで一人一人の付加価値を上げ、もう少し急勾配な成長にもっていきたい。

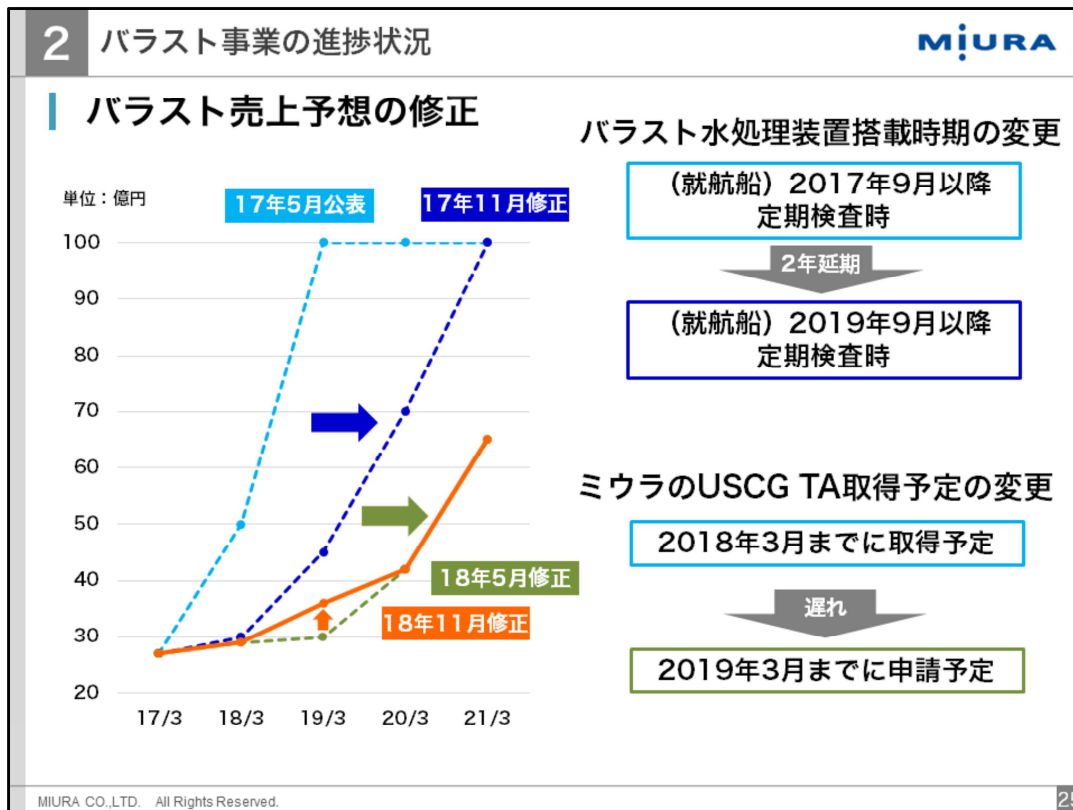
全体の中国の流れについてまとめ

規制緩和により業績が後ろ倒しにはなっているが、環境規制は今後厳しくなっていくと踏んでおり、中国市場自体は日本よりもかなり大きな市場で、営業の成長と市場を見ながら対応すれば、今後は順調に推移するものと考えている。

第2工場の建設計画については予定通り来年1月からスタート、2020年の春先には稼働予定。

(ここまで児島登壇)

2. バラスト事業の進捗状況



(ここから再び宮内登壇)

バラスト売上予想について

就航船への搭載義務が2019年9月以降になったため、レトロフィット分が引き続き後ろにずれている。

本来、USCGの型式承認は2018年3月であったが、追記試験等々の要求で2019年3月に後ろ倒しになった。

認証取得した他社機種も増えており、中小型船市場において認証のあるものが選ばれている認識もある。

時間軸として後ろにずれ、法的な規制が進むにつれて台数が増加する見通しは引き続き持っている。

3. ランドリー事業の現状と今後の見込み

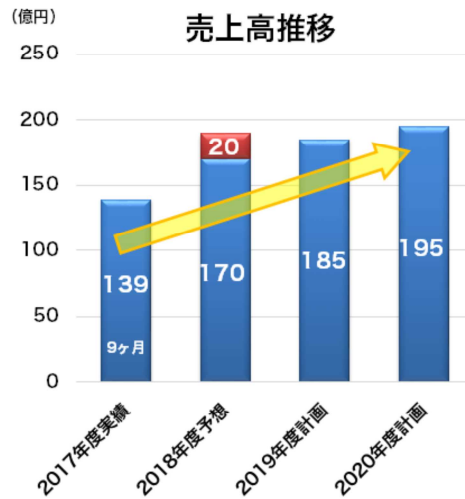
3 ランドリー事業の現状と今後の見込み

MIURA

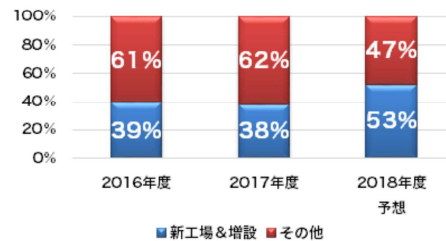
上期 決算期の変更による影響で上期に業績が偏重

下期 底堅いインバウンド需要からリネン工場の引き合い増加

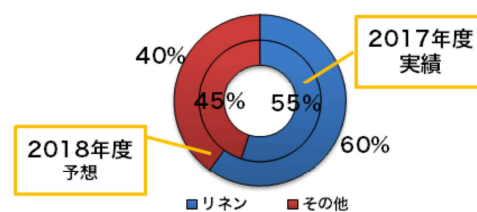
売上高推移



連続式洗濯機納入区分割合



業態別 売上割合



MIURA CO.,LTD. All Rights Reserved.

27

ランドリー事業について

今年度非常に好調。

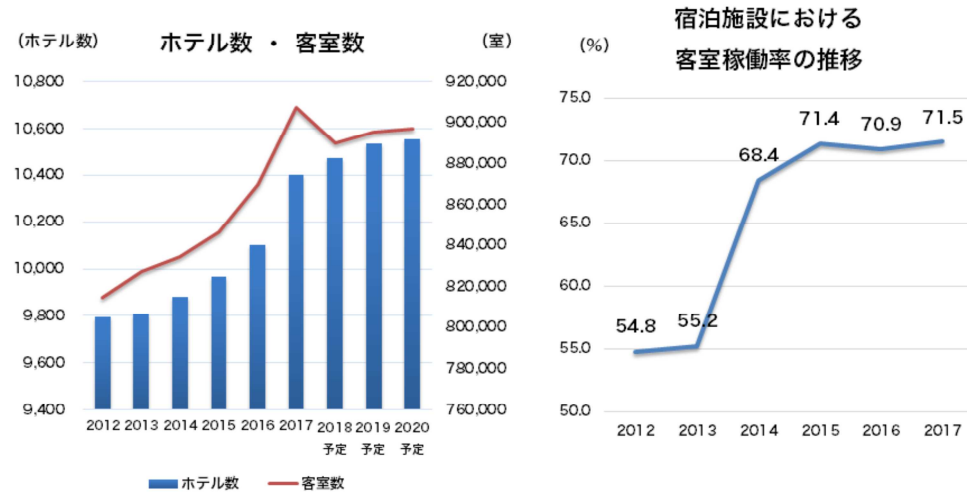
右上グラフより、ここ3年の納入の形態は明らかに青色の新工場、増設の案件が増加。既存の入替よりも増加しており、好調の原因と思われる。

右下の円グラフは、ランドリーのうち、青色のホテル、病院リネンと、赤色のそれ以外のクリーニング、コインランドリーに分けたもの。

2018年度予想はリネンの割合が増加しており、ホテル、病院が牽引して好調であることの裏付けと思われる。

ホテルリネン 市場動向

- ① ホテル軒数増加&稼働率UP
- ② 高級志向へ（枕/タオル）



出所：厚生労働省「衛生行政報告例」および当社調べ

出所：観光庁「宿泊旅行統計調査」

MIURA CO.,LTD. All Rights Reserved.

28

厚労省データより、実際にホテル数は確実に増加。

観光庁データより、客室稼働率もインバウンドが着実に推移していることを受け、リネン業界の活況状況は継続。

3 ランドリー事業の現状と今後の見込み-重労働・残業からの解放- MIURA

<過去・現在>

訪日外国人の増加、客室稼働率高騰により、工場生産量が追いつかない！

生産性を高めるために、老朽化等により生産性の低い設備を高生産・省エネ・省力化を備えた設備に更新し、生産性を向上

<現在・将来> 高生産体制となっているが・・・

労働環境の改善が遅れ、人材確保に苦慮している工場が増加（3K職場）

少人員で、品質を維持できる働きやすい環境を提供する設備が要望されている



MIURA CO.,LTD. All Rights Reserved.

29

アイナックス稲本の課題への取り組みと成長戦略

リネン業界も人手不足であり、手でシーツを広げるといったこと等の自動化、人手不足でも動く工場、そのための機器開発と他社との差別化を進め、成長を継続させたい。

そしてその後、国内で進めてきたことを海外のステージへ展開したいが、現段階では国内で特長ある省力化、省人化の進む機器開発での成長を目標に進める。

4. 過熱蒸気再生活性炭ろ過装置について (Jトップ株式会社)

業務提携会社の概要

【会社概要】

会社名	Jトップ株式会社
所在地	大阪府和泉市箕形町4丁目5番44号
設立	2009年12月
事業内容	環境機器製造販売・エンジニアリング、 環境コンサルティング
代表者	代表取締役社長 仲喜治一（ナカキ ジイチ）
資本金	80百万円（2018年10月現在）
従業員数	20名（2018年10月現在）
主要株主	仲喜治一（66.7%） 三浦工業（20.0%） その他株主（13.3%）

【主要製品】 活性炭ろ過装置



【製品の特長】

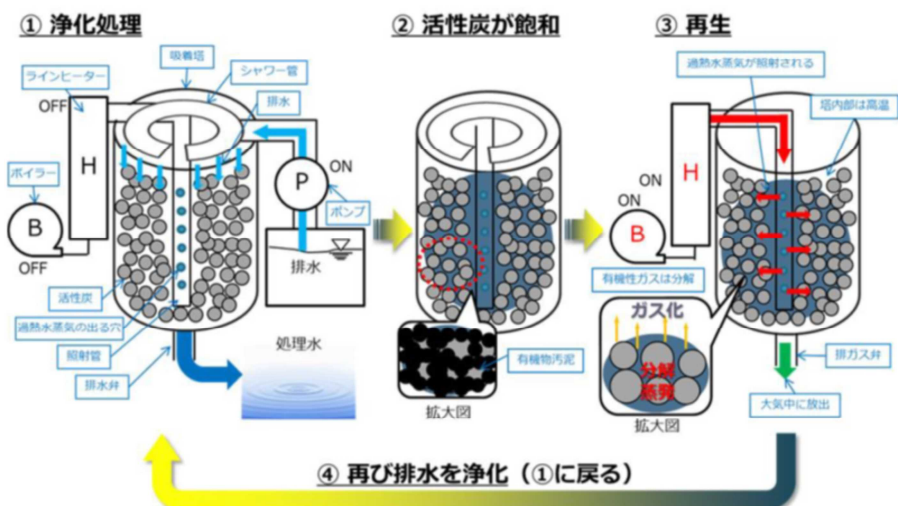
- オンサイトで過熱蒸気により活性炭を再生する「過熱蒸気再生 活性炭ろ過装置」という特長ある製品
- 有機物低減・濃縮減容が可能で浄水処理、排水処理、リユースなど様々な分野で使える可能性があります。また、蒸気を使うという面でも三浦グループ商品と繋がりがあり、トータルソリューションを担うひとつの製品

成長戦略としての取り組み

大阪のJトップ様と過熱蒸気再生活性炭ろ過装置について協業開始。
資本も20%ほど投入し、新しい技術を進める。

過熱蒸気再生 活性炭ろ過装置

製品の特長



MIURA Co., Ltd. All Rights Reserved.

32

過熱蒸気再生活性炭ろ過装置の特長

活性炭は小さな穴を沢山持ったもので、有機物を吸着する性質を持っていることから、脱臭や水質浄化など有害物質の吸着に用いられている。

吸着した物質でいっぱいになった活性炭は、吸着した物質を外に追い出すことで再利用出来るが、今までの技術では、装置から活性炭を全て抜き取り、専門の再生工場に送って再生し、その後再生済の活性炭に入れ直すしかなかった。この作業にはかなりの労力とコストが掛かる。

本装置は、高温過熱蒸気を活性炭に吹き付けて吸着した物質を蒸発除去する再生プロセスをオンサイトでやる。つまり、小さな装置で何度も再生して継続的に使えることで、大きな装置よりもコストが安く水処理が出来る。

リネン業界の「洗い」では有機物質の除去や、染色業界では着色排水と臭気除去で困っているところに、これを従来の装置に組合せて提案していきたいと考えている。

課題はまだまだあるが、色々な形で研究・開発を進めて、排水の世界への一步としたいと考えている。

ご清聴ありがとうございました

熱・水・環境のベストパートナー



問い合わせ先

三浦工業株式会社 経営企画室

TEL 089-979-7045

FAX 089-979-7011

URL <http://www.miuraz.co.jp>

MIURA CO.,LTD. All Rights Reserved.

以上、現状をご説明させていただきました。

来る2019年3月期もそうですが、今後も中長期的に成長できる会社を全力で目指してまいりますので、引き続き今後ともご指導のほどよろしくお願いいたします。
ありがとうございました。

(おわり)